令和３年度 第１回立川市ＳＤＧｓ推進委員会　会議録

開催日時　令和３年 10 月 14 日（木曜日）　18 時 30 分～20 時 30 分
開催場所　立川市役所 208・209 会議室
出席者　［委員］片桐庸行（委員長）、佐藤良子（副委員長）、枝村珠衣、笹浪真智子
田中準也、寺田良太、中村衣里、樋口通子、山本晶子
［事務局］栗原寛（総合政策部長）、浅見知明（総合政策部企画政策課長）、
牛山亮太（総合政策部企画政策課係長）、青木祐友（総合政策部企画政策課主事）、岡本晃一（総合政策部企画政策課研修生）、小林優貴（立川青年会議所）、春川友浩（ＩＫＥＡ立川）

議事日程　１．開会
２．正副委員長選出
３．資料の確認
４．立川市の取組について
５．各委員の取組について
６．今後のスケジュール
７．閉会

会議録

１．開会

（事務局・総合政策部長）

令和３年度第１回立川市ＳＤＧｓ推進委員会を開会いたします。

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の 17 のゴールである貧困や福祉、教育、ジェンダー平等、環境等の課題については、すべて基礎自治体が実施している施策に通じています。しかし、行政の取組だけですべてが達成できるわけではなく、市民、団体、事業者等の多様なステークホルダーと連携して取り組むことが肝要と考えております。市の姿勢を示すものとして、市の基本計画における施策とＳＤＧｓの対応表や、ＳＤＧｓの重点取組事業等、本日配付している資料を作成しましたが、ＳＤＧｓの推進にあたっては行政内部だけでなく、委員の皆さまからの意見を取り入れることで、より多角的かつ具体的な取組となることが期待できます。

このような趣旨により、本委員会を設置したところでございます。なお、本日の委員会では、市の取組に対して委員の皆さまよりご意見をいただき、また各委員から取組事例をご紹介いただきまして、合わせて忌憚のないご意見をお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

自己紹介

［各委員がそれぞれ自己紹介］

２．正副委員長選出

［片桐委員が委員長、佐藤委員が副委員長に選出された。］

３．資料の確認について

［事務局より確認］

４．立川市の取組について

（委員長）

続きまして、「立川市の取組について」です。立川市ではどのような取組が行われているのか、具体的な取組につきまして事務局から説明の後、お気づきの点等について、質疑応答のお時間を設けたいと存じます。それでは、事務局から説明をお願いします。

（事務局・企画政策課長）

それでは、資料３について説明をいたします。本日は意見交換に十分な時間を取らせていただきたいと考えておりますので、市の取組についてはポイントを絞って説明いたします。

まずは２ページをご覧ください。開催にあたってです。本日の第１回目では、皆さまに事前にご提出いただいた取組事例について意見交換を中心に進めていきます。第２回目では、本日の意見交換について振り返りを行うとともに、連携や情報発信、報告書の作成に関するご意見をいただきたいと考えております。報告書につきましては、市のＳＤＧｓの方向性を検討する際の参考とさせていただきます。

次に、３ページのＳＤＧｓについてです。こちらは参考として見ていただければと思います。ＳＤＧｓの説明と 17 のゴールのアイコンを示しております。

続きまして、４ページ、国におけるＳＤＧｓの取組についてです。平成 28 年 12 月に「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）実施指針」が決定しました。この中で立川市を含む基礎自治体の役割が明確化されています。

その後、第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略においてＳＤＧｓの推進が掲げられました。こちらは、まち・ひと・しごと創生法に基づく戦略でございまして、地方創生といった視点で人口減少を克服し、活力ある社会をつくることを目的としています。

次に５ページをご覧ください。続きまして、本市における取組についてです。本日概要版をお配りしています「立川市第４次長期総合計画後期基本計画（以下、後期基本計画）」ですが、令和２年３月に計画決定いたしました。この計画内で掲げているまちづくり戦略は、持続可能な社会の実現を目指しており、ＳＤＧｓの理念と一致していることから、ＳＤＧｓの実現に貢献していくと明記しています。それから、政策会議とまち・ひと・しごと創生推進本部ですが、いずれも庁議でございまして、こちらで具体的な取組の方策を検討していくとの市の方向性が決定されました。

続いて６ページをご覧ください。まちづくり戦略とＳＤＧｓの関係性についてご説明いたします。資料４を合わせてご覧ください。市の後期基本計画では、まちづくり戦略において、５つの基本目標と９つの数値目標を定めています。「２．戦略の考察」を見ていただきますと、来訪者数は令和２年度に大きく減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、市内の鉄道利用が大きく減少したとの要因がございます。それから社会増減数ですが、転入超過が増えているといった傾向があります。若者世代や子どもの社会増が多くなっています。また、「３．戦略の更なる推進に向けて」では、「ＳＤＧｓをきっかけとした事業者、市民団体、地域団体等の連携を積極的に進め、官民一体で様々な課題の解決を図ることで地域の活性化を図る。」といった方向性を示しています。

説明は以上です。

（委員長）

ありがとうございました。今の説明について、ご意見等お願いいたします。

※質問等なし

（委員長）
ご質問等もないようでございますので、続けて、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局・企画政策課長）
それでは続けて説明いたします。先ほどの資料３の７ページをご覧ください。（１）の後期基本計画とＳＤＧｓとの紐づけについて説明します。資料５をご覧ください。こちらの一覧ですが、縦軸は都市像・政策が各５つ、またそれに応じた 37 の施策が記載されています。施策は、政策を実現させるための取組方針といった位置付けです。また、この施策の下には 102 の基本事業、800 を超える事務事業がございます。ここでは施策レベルでＳＤＧｓとの対応を示しています。
５つの政策ごとに、特定のゴールが集中しています。「子ども・学び・文化」では、ゴール４の「質の高い教育をみんなに」、「環境・安全」ではゴール 11 から 15 まで、まちづくりから環境に至る分野が中心となっています。「都市基盤・産業」については、ゴール８と９の労働や産業活性化の分野、「福祉・保健」については、ゴール３の健康と福祉、最後の「行政経営・コミュニティ」についてはゴール 16 が集中しています。ゴールの 16 については、公平公正な行政運営の視点に基づいたものです。また、注目すべき点として、すべての施策にゴール 17 を紐づけています。市の後期基本計画においては、すべての施策に、市民や事業者との役割分担や連携を明記していることから、すべての施策において、パートナーシップを推奨・推進して取り組む必要があるとの位置付けです。
次に（２）のＳＤＧｓ重点取組事業に関しての説明です。先ほどは施策レベルでＳＤＧｓとの紐づけを整理したものについて説明しましたが、そのままでは具体的な取組がわかりにくいことから、それぞれの施策から代表的な取組事業を選定いたしました。戦略や計画における重要度が高く、ステークホルダーとの関わりが強いといった事業について、選定の優先度を高め、加えてＳＤＧｓとの親和性やイメージのしやすさを考慮して選定したものとなります。
続いて資料６をご覧ください。先ほども説明しましたまちづくり戦略の５つの基本目標に、ＳＤＧｓ重点取組事業を当てはめたものです。例えば１ページの都市計画等関連事務ですが、「魅力と活力あふれた快適で利便性の高いまちづくり」に分類しており、代表的なゴールと関連するターゲットを定めています。関連するターゲットについては、ＳＤＧｓ 169 のターゲットの中から、重点取組事業すべてに定めています。
続きまして、資料６の補足資料です。資料６の重点取組事業について、対外的にホームページ等を通じて紹介するための資料です。発信することを意識して、タイトルについても親しみやすさ、わかりやすさを考慮して工夫したものです。例えば、「地域と学校の連携・協働による教育活動の充実」は、「地域学校連携事業」という事務事業ですが、事務事業名そのままで発信をすると、事業の内容がわかりにくく、固い印象を与えてしまうことから、このようなタイトルを設定しています。また、「たちかわ市民交流大学を通じた市民と行政の協働による生涯学習」については、「市民交流大学運営事業」という事務事業名であるため、タイトルを工夫し親しみやすさを持てるようにしています。こちらの補足資料につきましては、年内にホームページを通じて公開したいと考えております。
説明は以上です。

（委員長）
ありがとうございました。ただ今の説明について、ご意見等お願いいたします。

※質問等なし

（委員長）
市の取組のご紹介をいただきましたが、Ａ委員から何かご意見等ありませんでしょうか。お願いします。

（Ａ委員）
行政の仕事というのは、基本的な考え方がありまして、地方自治法という法律において、住民の福祉の向上を定めています。日常の仕事がすべてＳＤＧｓにつながっている。ＳＤ

Ｇｓに通じる仕事をし続けてきていると言えるのではないかと思います。立川市ではＳＤＧｓと銘打っての取組はまだ始まったばかりですが、日常生活で取り組んでいるとの意識もあり、あまりクローズアップせずに進められてきたような気がします。
ここで、ＳＤＧｓに本格的に取り組むにあたって、市の仕事がどのようにＳＤＧｓに結び付いているのか、マトリクスで紹介があったように、見える化をすることが第一歩になるのではないかと考えております。
見える化をすることで、職員全体で自分のやっている仕事が、ＳＤＧｓのどの項目に結び付いているかを改めて確認し、意識改革が行われ、その視点でまた次の仕事をスタートさせることができる。最初の話にもありましたように、行政だけで取り組めることは限られていますので、その結びつきを意識して、アピールすることで、市民や団体、事業者等のステークホルダーの皆さんのお力を借りて協働しながら、今後の取組につなげていければいいと思います。

（委員長）
ありがとうございました。それでは、次に進めさせていただきます。

５．意見交換について
（委員長）
今から「意見交換」ということで、お時間を頂戴しております。資料７について、皆さまお手元にございますか。こちらに基づきまして、皆さまの取組についてお伺いしたいと存じます。皆さまより一通りご紹介いただきましたら、質疑応答のお時間とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
それでは、Ｂ委員からお願いいたします。

（Ｂ委員）
私どものＳＤＧｓに関する取組についてですが､「誰もがふつうにくらせるしあわせなまち立川」という理念を掲げ、あらゆる世代を対象に、「市民主体の地域活動支援」「総合相談支援」「在宅生活支援」という３つの柱で活動を展開しています。「市民主体の地域活動支援」では、ボランティアをしたい方への支援や、地域密着型で住民の方と一緒に課題に取り組むような地域福祉コーディネーターの配置をしています。２つ目「総合相談支援」では、色々な契約手続きのお手伝いや生活困窮のご相談の受付等をしています。３つ目の「在宅生活支援」では、障害のある方の働く場やデイサービスの運営等をしております。
それから、市行政の計画である「地域福祉計画」と、市民計画である「地域福祉市民活動計画」を両輪にして、重点推進事項を進めています。地域の中で気軽に立ち寄れる地域福祉のフラッグを立てたアンテナショップの設置や、地域福祉コーディネーターの活動強化、相談者を属性で分断しない、まるごと支援を３つの柱として行政と一緒に進めています。
ＳＤＧｓには貧困というテーマがあります。経済的な貧困への対応としてはお金の貸付等がありますが、それだけではなく「つながりの貧困」を防止するために、生活支援と併せた貸付事業や、地域密着型及び共通するテーマで「人と人」「人と活動」をつなげる事業を展開しています。
また、フードバンクやフードドライブへの支援を通じて困窮対策と同時に食品ロスの削減の啓発に取り組んでいます。
課題についてですが、特に子どもや若い世代の方たちは、自分に「つながりの貧困」があることを自覚しにくいため、配慮ある声かけやつなぎ役となって一緒に考えていける人を増やす必要があると考えています。

（委員長）
ありがとうございます。貧困率ですが、立川市では６～７人に１人といった数値が出ています。地域にこんなにも多くの貧困の世帯がいることを改めて実感いたしました。日本は一見すると裕福に感じられますが、調べてみると意外と貧困率は高いです。
副委員長とは、地域で連携して実施しているようなことはあるのでしょうか。

（副委員長）
たくさんあります。平成 12 年に三宅島が噴火した際には、避難所を運営して三宅島から 47 世帯を受け入れました。その時に最も力になっていただいたのがＢ委員の団体です。また、11 年前の東日本大震災の際にも津波や原発事故の影響で自宅に戻れなくなってしまった方が 271 名おり、その方たちの受け入れの際にもご協力をいただきました。来年の３月で東日本大震災の被災者支援が終了してしまうのですが、その方たちから住宅を取り上げるわけにもいきません。地元には戻らず、立川市民になっている世帯も４世帯あります。そういった方々を今後どう支援していくかについても、連携しながら見守りを続けたいと思います。地域と密着した組織なので、最も頼りになると感じています。
また、高齢者の方で認知症やアルツハイマーの症状がある方や、いつもと様子の違う方がいる場合には、民生委員を通じて地域包括支援センターにつないでいます。日常のお金の管理ができない方については、社会福祉協議会の「あんしんセンター」にお願いしています。また、さらにお金の管理の難しい方については、成年後見人制度にもつないでいただいています。

（委員長）
ありがとうございます。地域が連携してやっていくことは非常に大事ですね。
Ｃ委員に伺います。貧困というテーマについては、子どもたち世代にもすごく影響のあるものだと思うのですが、Ｃ委員は何か対策をしていることや、お考えはあるのでしょうか。

（Ｃ委員）
立川市でも不登校のお子さんは平成 29 年度から増加傾向にあります。一概に何が要因かは把握が難しいところです。スクールソーシャルワーカーを介して、社会福祉協議会や地域の様々な支援先につなげ、子どもたちの居場所づくりにご協力をいただいています。
ゴール４に「質の高い教育をみんなに」とありますように、子どもたちの居場所を作り、安心して生活できるように地域とのつながりをしっかり結び付けていきたいと考えています。

（副委員長）
私たちもＣ委員と連携して様々な子どもの居場所づくりをしており、塾へ通えない子どもがいれば近くの会館を使って勉強会を開催しています。
最近、中学２年生の女子生徒数名から生理用品を中学校のトイレに置いて欲しいという相談がありました。根底にはやはり貧困問題があります。生理用品を買えない子どもが何人もいるということです。男性にはなかなか相談しにくいために、私に相談がありました。さっそく、学校長と地域の PTA の方に動いていただき、その中学校では全ての女性トイレに生理用品が置かれました。即効性を持って実現できたのは、地域と行政との連携が速やかにできている証拠だと思います。その女子生徒たちもすごく感謝していました。こうした取組から、困ったらお互い助け合おうという気持ちになって欲しいと思っています。

（委員長）
ありがとうございます。続いてＤ委員お願いいたします。

（Ｄ委員）
私の所属する組織自体が、立川市と協働して事業に取り組んでいる団体です。立川市の産業部門との協働事業が多いのですが、他にもごみ対策や自転車対策といった分野で連携しており、先ほどのＡ委員のお話の通り、普段やってきたことがすべてＳＤＧｓにつながっているということを改めて実感いたしました。
今回資料７では、分かりやすく面白い事例を取り上げています。
まず、店前景観事業についてですが、６～７年前から取り組んでいます。歩行者が店頭を見て、お店に立ち寄る率を上げようという取組です。品質など入店してからについては取り組めているお店が多いのですが、見落としがちなのが店前で発信することです。思わず入りたくなる店前の作り方セミナーを開催し、店前に置くべきもの、おもてなしの三種

の神器、店前が気を付けなければならない拒絶の形になっていないか、建物の前面がいかに重要であるかを伝え、丁寧なおもてなしの表現を伝えています。結果として、セミナーに参加し、実践したほとんどのお店で、売上が増加したと報告がありました。人通りの少ない立地でも結果が出ているので、商店街にとっては重要であると考えています。

今年度から取り組んでいる個店の発信力強化事業では、個店の発信力に関するセミナーを開催し、ＳＮＳ等で情報発信する際の文書作成のコツと一番美しく見える写真のテクニック、特に光の角度といった商品撮影のテクニックを学んでいただき、個店の活力の上昇と成長を支援しています。

また、３年前からは農商連携プロジェクトとして、立川産食材を積極的に使用する市内店舗をＰＲして地域の活性化に貢献しています。

商店街が保有する街路灯の LED 化についてはかなり前から取組を進めており、LED 化する前の平成 22 年度と比べ､LED 化後平成 23 年度には 61%の電気代削減につながっています。

（委員長）

ありがとうございます。

LED 化は、地域でもできるエネルギー対策の一つであると思います。こういった取組をどんどん推奨して欲しいですね。資料７では 276 基のうち 252 基とありますので、あと 24 基、是非よろしくお願いします。それでは、Ｅ委員お願いいたします。

（Ｅ委員）

私どもは、アイムを中心に男女平等参画を目指す色々な活動をしています。活動をしていく中で課題だと感じるのは、男性が無関心であること、男性の活動への参加がないことです。

私が高校を受験した頃には、その当時の担任から、男性よりこれだけ上の点数を取らないと受からないと言われていました。ところが、今でも都立高校では男女別に定員が設けられていて、女性の合格基準点の方が高く、男性よりも女性の方が高得点を取らなければならない。去年は医学部や医大のニュースが話題になりましたが、男性は女性の何を恐れて、ハードルを上げているのか不思議に思います。昔は、男性はある一定の基準より上を求められ、基準より下にいると男のくせにとか男だからと叱咤激励されていました。当時の女性は逆に、その一定の基準より上を求めると、女のくせにと追い払われてしまう。それが今でも続いている。ガラスの天井と言われていますが、現在は男性の考えもいろいろ変わって来ていて、ガラスの天井はガラスの床にもなり得ます。とはいえ床を破って下に降りてくることは考えにくいです。そこで、ガラスの扉を横に行き来するような、そんな多様性があってもいいのではないかと思います。

先ほど貧困の話題がありましたが、シングルマザーの方の貧困率が高いのは事実です。多くが非正規雇用であり、結婚や出産でもともとの仕事を辞めざるを得ないためです。また、離婚後に元夫が養育費を支払わないケースもあります。支払わないのではなく、支払えないといった事情もあるかと思いますが、社会的責任、父親としての責任が必ずあります。男女平等は、男性が自分の持っているものを手放すといった考え方ではなく、お互いに荷物を少しずつシェアして、お互いに楽になるものだと考えています。

（委員長）

ありがとうございます。続いて、副委員長お願いします。

（副委員長）

若葉町の清掃工場の老朽化によって、いつまで焼却処分ができるかわからないとの話がきっかけで、10 年前から私たちの地域では、一人ひとりの責任を意識してごみの分別を行っています。現在は新清掃工場の建設も進んでいますが、それが稼働したとしても、やはり一人ひとりがごみについてのライフスタイルを変えていかないと、ごみの減量はできないと考えています。私たちの地域では、ただ単にごみの減量をするのではなく、食品ロスをなくすといったことから、生ごみ分別・資源化事業を始めました。

必要ないものは買わない、ある物は捨てずに最後まで使い切ることを念頭にこの事業に取り組んでいます。生ごみを含め、燃やせるごみの減量はとても大変ですが、自治会に加

入している約 1,580 世帯のうち、自由参加にも関わらず 65％が参加しています。参加していないのは、ほとんどが高齢者世帯です。本自治会は高齢化率が 30％を超えていまして、高齢者の方は食事量が少ないことから食品廃棄が少ないといったことや、要支援や要介護といった理由からご自分でごみの分別が難しいとの事情があります。それでも、高齢者のためのごみ捨てボランティアは 40 名程おります。また、野菜の端切れを使った料理のレシピなど、広報紙にもごみ減量のアイデアを載せています。ごみの減量については、環境問題の中で一番大事なことだと思っています。

地域コミュニティの形成といったところでは、私たちの自治会組織が唯一、立川市内で土台ができていると自負しています。ここまでのまちづくりに 15 年かかりました。自治会組織を若い世代にバトンタッチしてからも、継続的にごみの減量や、高齢者の見守りネットワークなど、必ず一人一役を担っています。困った時には相談窓口もある。こうした普段からの取組は、災害など緊急時に向けた取組にもつながります。

ごみの減量には自治会総出で真剣に取り組んできましたが、残念ながら立川市議がまったく見学に来ません。取組をご存じない方もいらっしゃる。こちらから申し入れをし、４名の市議が見学にいらっしゃいました。一人ひとりの責任が重要ですが、こうした取組については、市議のような地域を代表する方が、率先して取り組む姿を見せることが一番効果的だと思います。他自治体からは毎年 40 件以上見学に来ていますが、市内の団体はまったく来ていません。非常に残念に感じています。市と地域が一体となって取り組むことを方向性として掲げるのであれば、こうした点はもっと深刻に考えるべきだと思います。

清掃工場の移転については、自治会内に委員会を作り、良い清掃工場になるようにと丁寧に説明会やアンケート調査をしました。結果として、移転の受け入れに対する賛成が 85％となり、反対者はいませんでした。地域がいくら頑張っても市全体が頑張らないといけない。行政任せでいいのではなく、自分のできる事から始めようというのが私たち自治組織のやり方です。

（委員長）

ありがとうございました。続いては私からご説明いたします。

立川青年会議所は、立川市、国立市、武蔵村山市といった３市にまたがって活動しています。2019 年には、３市の行政とＳＤＧｓ協働推進宣言を締結しました。市と立川青年会議所が協力して、まちに、市民の方にＳＤＧｓを推進していこうというものです。立川青年会議所では、2017 年からＳＤＧｓの取組を始めています。「明るい豊かな社会の実現」という団体のテーマと、ＳＤＧｓの「持続可能な社会の実現」という理念にリンクするところがあり、17 のゴールもキャッチーなアイコンが付いていて、市民の方に受け入れてもらいやすいのではないかということから、率先して取組を進めてきました。最初はＳＤＧｓの単語すら理解していただけず、ＳＤＧｓのシンボルマークのバッジを着けていても、「カラフルでかわいいね」といった感想が聞かれるのみでした。今では、テレビ局がこぞってＳＤＧｓの特集や、ＳＤＧｓと銘打ち番組を作るまでに発展してきています。日本全国に設置されている組織としては、ＳＤＧｓがこのように発展するきっかけになれたのかなと、大変嬉しく思っています。

また、立川青年会議所ではペーパーレス化を推進しています。紙保存しなければならないものを除いて、会議資料等も完全にデータでやり取りし、それぞれのパソコン上で資料を見ながら会議をしています。

また、青年経済人として、立川青年会議所という組織の前に自らの会社でＳＤＧｓを進めなければ説得力がないとの思いから、各企業でも取組を始めています。業種等によりできること、できないことがありますが、169 もターゲットがあるので、地域のために仕事をしていれば必ずいずれかのターゲットに該当すると考えています。どのターゲットに該当していて、どのゴールに貢献しているのかなど、メンバーへのＳＤＧｓ教育も行い、それぞれの会社で取り入れてもらっています。個人的には、名刺にＳＤＧｓのゴールのアイコンを入れています。現在では、９割以上のメンバーが取り組んでおり、残りの１割は取り入れ方を模索中です。

また、LIMEX という新素材の導入を進めました。LIMEX というのは、１～２年前に開発された石灰石で作られた紙のことです。水や森林資源を節約する商品として開発されたもので、石灰石は日本で採掘できる鉱物の中で比較的多く採れるため、国内生産が可能な点も

魅力です。様々なＳＤＧｓに則った商品や製品が増えてきたため、継続して積極的に使っていきたいと考えています。
課題としましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、手伝いをしている地域のお祭り事業が開催できないことや、人を集めて会議を開催することが難しいため、ＳＤＧｓをより多くの方に知ってもらう機会や、ＳＤＧｓを通じて活動を知ってもらう機会をどのように作っていくかを考えていかなければならないことがあります。今年ですと、よいと祭りが中止になったことで、子どもたちが絵付けをした提灯をサンサンロードに飾ることができませんでしたが、たましんRISURUホールにご協力いただき、ホールのロビーに提灯を飾っていただきました。機会の提供や、意識を醸成することに貢献できたのかなと感じています。今後もコロナ禍においても様々な工夫を取り入れて取り組んでいきたいと思います。

（委員長）
それでは、続いてＦ委員よろしくお願いいたします。

（Ｆ委員）
皆さん非常にインスピレーション溢れる発表で、正直なところ、ここまで積極的に皆さんが取り組まれていることを存じ上げなかったため、この会に参加できて大変ありがたいと思っています。もっと皆さんと関係性を深めて、可能な限り協力して、地域社会に貢献できる立ち位置の企業であることを広めていきたいと考えています。よろしくお願いします。
サステナビリティは､弊社では自分たちのＤＮＡに組み込まれているような位置付けで、2012年に、会社としては「ピープル・アンド・プラネット・ポジティブ」という戦略を掲げ、社員教育やお客様へのコミュニケーション、全ての掲示物、店舗ではルームセットでもサステナブルな暮らしを提案しています。社会問題に対するところでは、フードバンクさんにもご協力をさせていただきました。社としては、被災者の方に対する支援、貧困、シングルマザー、非正規雇用、ごみの分別、食品ロス、高齢化社会など、全て支援の議題になっています。社としては長く様々な取組を進めてきたため、多くのトピックがあるのですが、お時間が限られていますので、資料７に記載をしました内容についてご紹介いたします。
お客様に対しては、単に家具販売をするというよりも、その後ろにあるストーリーを伝えて、ライフスタイルそのものを提供することを販売戦略としています。そのため、商品一つをとっても、その原材料には再生可能なプラスチックを採用し、使い捨てのプラスチック製品は販売しないようにしています。また、もともとシングルユースの電池を商品として取り扱っていましたが、それを廃止し、充電式で捨てないものしか販売しないこととしました。商品を置かないとの選択肢もありますが、商品がなぜこうなったのかを、販売することにより共感してもらう形で皆さまの考えを広げていく。そのような立ち位置を意識しています。また、商品ではありませんが、電気自動車の充電スタンドの無償設置、地熱エネルギーの利用や屋上緑化、トイレの水に雨水を利用するなど、再生させる、循環させるということを念頭に、直接事業とは関係のない分野においても、皆さまにお伝えしながら共感してもらうという立ち位置を取らせていただいています。
社員にも、自分たちの仕事がどのようにサステナビリティを広めることにつながっているのかをまず伝えています。サステナブルが特別なことではなく、生活や仕事の中に自然にあることを目指して、社員教育や日々のコミュニケーション、アプローチの中でも伝えるようにしています。
また、社会貢献も大きなテーマで、どのように地域貢献して行くかが各ストアの指針となっており、各ストアの経営陣の査定基準にも含まれています。従業員にどの程度伝わっているか、お客様にどの程度伝わっているかが全て数値で測れるようなアンケートや調査をし、定期的なレポートとしてまとめています。
課題としては、そもそものサステナビリティに対する関心が薄いことが上げられます。ストアというメディアで発信はしていますが、それだけでは発信力が弱いので、地域の同じ目的を持って活動されている方たちと連携して発信力を高めて行きたいと考えており、今年から強化していこうと活動しています。また、限られた予算の中で、まず拠点である

立川市で解決しなければいけないトピックは何なのか。把握する術をいまいち見つけ出せずにいます。女性の社会進出の問題なのか、貧困なのか、子どもに関することなのか、何が重要課題なのか、市や皆さんと連携してどこに重点を置くかを絞らせていただきたいと考えています。

（委員長）
ありがとうございます。それではＧ委員よろしくお願いいたします。

（Ｇ委員）
私からは、本学の特にジェンダーやセクシャリティに関する取組をご紹介いたします。
学生からここ 10 年以上にわたって既存の男女別トイレが使いづらいとの意見が上げられ、それらの意見を踏まえ、2020 年９月に学内に「オールジェンダートイレ」が作られました。名称を聞いてもあまり馴染みがないと思いますので、私が取材してまとめた記事に基づいてご紹介したいと思います。
名前の通りすべてのジェンダーの人が使えるトイレというものです。既存のトイレに対し使いづらいと声を上げていた方たち、特にトランスジェンダーの方たち、皆に平等に人権があります。マジョリティであるシスジェンダーの方たちは、男女別トイレに満足していると思いますが、これは当然のことではなくマジョリティの特権であり、優遇してもらっていただけであって、マイノリティの方たちの人権は多目的トイレを一つ用意して達成されるものではないとの考え方に基づいています。
大学本館にある多くの学生が使う中央トイレ１～３階までをすべて改修し、オールジェンダートイレが設置されました。11 室が洋式便座で、４室が小便器、１室が広いスペースを伴う便座で、障害者の方でも使いやすいものとなっています。隣から異性が出てくることがあり得る構造のため、いろいろな不安の声もありました。そのため、個室の密閉感を高めた設計や音漏れを防止する材質、凹凸を無くして盗撮を防止する構造や、デッドエンドを作らず、何かあっても逃げられるような工夫が施されています。
学内でも様々な議論がありましたが、学内アンケートでは 200 名の学生が回答し、満足や大変満足と回答した学生が約 60％、普通と回答した学生が約 30％、やはり不安だと回答した学生は約 15％でした。コロナ禍で利用者が少なく、あまり鉢合わせになることがなかったために、普通や満足といった回答が多くなっている可能性もあり、盗撮や生理用品の盗難など、今後も注意していく必要があると感じます。
また、男女別の健康診断だと受診しづらい学生に配慮し、オールジェンダーの時間が設けられており、学生寮ではあらゆる多様性を尊重するダイバーシティ・フロアが設置されています。

（委員長）
ありがとうございました。では、次にＣ委員お願いいたします。

（Ｃ委員）
教育に関しては、ＳＤＧｓのゴール４が直接関わるものとなっています。また、いずれの取組も何らかのターゲットに関連していると承知しています。学習指導要領が 2017 年３月に新たに公示されましたが、その中でも「持続可能な社会の創り手」の育成というものが明記されました。これまでも「社会の創り手」の育成に、教育は大事な役割を担ってきましたが、改めて「持続可能な」という視点で、教員たちが意識しながら子どもたちへ指導にあたる必要があると思います。
先般、ＧＩＧＡスクール構想に伴い、１人１台のタブレット端末が子どもたちに配付されました。これは全国的な取組でもあります。どんな子にも質の高い教育というところでの活用例を挙げますと、コロナ禍を不安視して休まれるお子さんや、ケガで休まざるをえなくなってしまったお子さん、病気でなかなか学校に通いづらいお子さんに対しても、家庭にいながら授業を見たり、先生とやり取りをしたりすることができています。教室にいる子とまったく同等の質の教育を受けられるかというと難しいですが、できる限り近づけながら学んでいくための一つのツールとして、1 人 1 台タブレット端末を活用しています。
また、「立川市民科」ですが、平成 27 年度から取組を進めています。地域を教材として、

探究的な学習を通して、子どもたちを育てていこうという取組です。今回、教育課程特例校として国に申請をしました。簡単に言うと、時間割に「立川市民科」という時間割が１時間追加されるというものです。この「立川市民科」では、地域の探求的な学びを通して多様性を尊重する「よりよい社会」の実現に向けて、主体的に考える市民を育成することを目的としています。この取組そのものが「持続可能な社会の創り手」の育成にもつながると考えています。地域と協力していきながら、身近なところから課題を発見して、その課題に対して、子どもたちがどのように取り組めばいいのか、子どもたちと協働しながら考えていく、そういった学習になるものです。特に課題を見つける、見つけられるようになるというところは、ＳＤＧｓに直接つながってくることと思います。よって、実際の教育現場においては、ＳＤＧｓそのものを知識として埋め込むのではなく、ＳＤＧｓにつながる素地を作るものとして捉えていきたいと考えています。ただし、教員については、今実施している学習活動がＳＤＧｓのどのターゲットやゴールに関連するのか意識することが必要だと思いますので、研修等でしっかりと伝えたいと思います。

（委員長）
ありがとうございました。続いてＡ委員よりお願いします。市の取組については、先ほど事務局よりご説明がありましたので、主に課題についてご紹介をお願いします。

（Ａ委員）
課題ですけども、市としては取組の見える化を始めたばかりで、それによって、各職員がＳＤＧｓと自分の仕事との関連を意識できている、あるいは意識し始めているといったところです。ただ、意識しているのは直接関わっている担当や管理職といった限られた職員ですので、それを庁内全体に広めていく、庁内全体に意識付けしていくことがまずスタートであると考えています。それから、市民にも市役所の取組としてアピールして、ご自分の生活にも結び付けていただくということが大事なのではないかと思います。
また、やはりサステナブルという視点では持続可能、次世代にいかにつなげていくかということが長期的には非常に重要です。どうしても行政の取組は固くなりがちであり、わかりにくさがあるため、もう少し噛み砕いて皆さんにお伝えして、例えば子どもたちが教材に使ってもいいですし、自分の生活に参考にしていただいて、意識付けをしていただくといったことができたらいいなと考えています。

（委員長）
ありがとうございました。今、皆さまから取組についてご紹介をいただいたところですが、ここでご意見やご質問のお時間とさせていただきます。お話をしていて共通のゴールに貢献するもの等もあったかと思いますが、何かお気付きの点などございましたら、お願いいたします。

（副委員長）
Ｇ委員に伺います。オールジェンダートイレの設置については、設置前にアンケートなどは取られたのでしょうか。

（Ｇ委員）
アンケートを取った上で設置されました。しかし、私はアンケートの内容を見ていないため、設置されたことにまず衝撃を受けました。
私自身は設置に携わった方への取材を通じて趣旨に賛同しましたが、このトイレがどのような目的や意義で作られたかについて、もっと学生全体に周知していく必要があると思います。

（副委員長）
現に利用していてどのように感じますか。

（Ｇ委員）
実際に利用してみると、それほど抵抗はありませんでした。完全に隣とは遮断されてい

る空間で、個室の中に手洗い場もあるため、サッと入ってサッと出て行ける構造になっていて、あまり違和感はありません。

（副委員長）
ありがとうございます。

（委員長）
他にご質問などありませんか。

（Ａ委員）
私からもＧ委員へ質問です。オールジェンダートイレの資料を見させていただいて、あまり想像ができないというのが実感です。どういった構造になっているのかがとても興味深く、一度見せていただきたいなとも思います。
実際の使用についてですが、トランスジェンダーの方にとっては、ある特定のトイレを使うことでカミングアウトしているといった意識付けになってしまうのではないかと思います。こうした意識付けについては、学内全体が多様性を理解しているのか、あるいは人によって今まで通りのトイレを使うことでカバーされているのでしょうか。

（Ｇ委員）
オールジェンダートイレを使うことでカミングアウトになってしまうのではないかとのご質問ですが、むしろそれを防止するために作られたものです。もともと設置されていた多目的トイレを使っていた頃には、「なぜそこに入るのだろう？」と疑問に思われ、カミングアウトになってしまうとの意見がありました。
オールジェンダートイレは、もともと男女別で多くの方が使うトイレを改修しているため、そのまま多くの人がオールジェンダートイレを使うことになりました。そのためシスジェンダーの方もトランスジェンダーの方も使うので、カミングアウトになることがないようなシステムができています。

（副委員長）
一度視察をさせていただきたいですね。視察等の受け入れはしているのでしょうか。

（Ｇ委員）
個人での見学は難しいと思いますが、行政等の団体の視察であれば受け入れられる可能性はあると思います。

（副委員長）
Ｃ委員に質問です。市内の中学生は職場体験を実施していましたが、新型コロナウイルス感染症のためにここ２年ほど実施できていないと思います。これに代わるような取組はなされているのでしょうか。

（Ｃ委員）
各中学校がそれぞれ工夫をしています。企業や市役所内の仕事をしている方にインタビューをして取組を伺うですとか、ゲストティーチャーとして企業の方をお呼びして話を聞くといった取組に代えて実施しています。職場体験についても、準備を進めていたのですが、受け入れていただく企業側へ依頼をしたところ、半数程度からコロナ禍で難しいと回答があったため、すべての生徒を受け入れていただくことが難しく、職場体験は実施が難しいとの判断となりました。

（副委員長）
ありがとうございます。

（委員長）
先ほど副委員長から、行政や団体などＳＤＧｓに対する意識の希薄さについて、ご意見

をいただきましたが、Ａ委員はこの課題提起に関してご意見はありますでしょうか。

（Ａ委員）
今こうして皆さんと集まって、ＳＤＧｓを通じた様々な取組をご紹介いただいていますが、ツールとしてＳＤＧｓが非常に有効に機能して、意見交換ができていると思います。今後の取組の楽しみや希望を感じられる会になっていることは、行政として非常にありがたいですし、先ほども申し上げましたが、行政の仕事はどうしてもできることが限られていますので、もう少し広がりを持たせるためには、皆さんと一緒に取り組んでいく必要があると改めて感じたところです。

（委員長）
ありがとうございます。Ｆ委員よろしいですか。広報面で皆さん課題を抱えている方が多くいらっしゃいますが、企業の方から見てアドバイスや、会社で取り組まれていることなどあれば教えてください。

（Ｆ委員）
ＳＤＧｓを特別なトピックとして扱うことは、浸透していない証拠だと思います。皆さんのお話を伺う限りでは、会社内といった対象ではなく、社会全体に向けて取り組まれている方が多いので、参考になるかはわかりませんが、社内で成功している部分としては、特別なものとして扱うのではなく、やることすべてにつながってきているといった意識付けがあります。
今までやってきた取組がＳＤＧｓのどのゴールに当たるのだろうと考えた時に、「あ、そっか」と気付くだけです。ＳＤＧｓという言葉が社会に急に現れたので、特別視してしまいがちですが、人として生きていく、日本の道徳観としてもともとあったものについて、ＳＤＧｓという形でフレームが新しく降りてきただけであって、まずは意識の部分をどうしていくかだと思います。これについては、一団体内であればかなりの底上げができるのではないかと思います。
次に社会に向けてですが、これについては私たちも課題だと感じています。私たちとしては、良かれと思って発信していることであっても、受け手であるお客様としてはそこまで興味がないといったものがあります。そこは私たちだけでなく、皆さんと協力してスピーチの場を設けていただくなど、とにかく続けていくことが大切だと思います。その情報に出会う場所を増やすことで、まち全体の意識が上がってくるのだと思います。皆さんは既に広報紙等で色々と発信されていると思いますので、トライ＆エラーで改善し、地道に続けていくしかないと思います。

（委員長）
ありがとうございます。他に何かある方はいらっしゃいますか。

（副委員長）
それではＤ委員にお聞きしたいのですが、大型スーパーやデパートが増えることが、個店にとっては悩みであるとお聞きしたことがあります。とあるお茶屋さんでは、お茶殻を佃煮にしたり、乾燥させて清掃に使ったりといった工夫をされています。また南口の中華料理屋さんでは年に１度落語家を呼んで、そこで商店のアピールをしてらっしゃいました。私もよく楽しませていただいていたのですが、現在はコロナ禍でイベントができなくなっているそうです。だんだんと個店がなくなってしまうのかなと感じています。特に立川通りでは、シャッターの閉まっているところが多くなったなと感じていまして、少し寂しい気持ちです。Ｄ委員としては、どのように向き合ってらっしゃるのでしょうか。

（Ｄ委員）
先ほどご紹介した店前景観事業や個店の魅力発信については、まさに個店への支援です。ただ、大型店を排除するのではなく、大型店とも一緒に歩んでいくという考えで取り組んでいます。大型店も地域の個店に協力しますという姿勢ですので、大型店と個店のマッチング支援や、先ほど副委員長がおっしゃられたように目立つ取組をされている個店をさら

にＰＲしています。
　立川通りについては、住宅を兼ねているとの事情から店舗としての貸付をしていない建物もございます。ただし需要は高く、空きが出るとどんどん新店舗が展開されています。

（副委員長）
　立川人としては、できる限り立川のお店で消費して、地域のお店を繁盛させたいと考えています。そういう考え方の人ばかりではなくて、大型店に行ってしまう人もいるので、そういった方を食い止めることが大変なのかなと思っていました。

（Ｄ委員）
　立川は、他の地域からもたくさん人が訪れます。他の地域から来た方は、わかりやすいので大型店を利用される方が多いと思います。立川に根付いている方は、副委員長のように立川愛に溢れている方が非常に多く、皆さん立川の個店を応援してくださっています。

（副委員長）
　ありがとうございます。頑張ってください。

（委員長）
　ありがとうございました。私も立川通りのあたりでよく買い物をしています。飲食店等も頻繁にリニューアルされていて、空きが出るとすぐに新しいお店が開店している印象があります。続いて、ご意見やご質問のある方お願いします。

（Ｄ委員）
　副委員長の生ごみ分別・資源化の取組を初めて知って素晴らしいなと思いました。家庭でもできるものがありまして､自宅に置ける小さな生ごみ処理機が 30,000 円程で買えるのですが、立川市で半額の助成をされています。30,000 円で購入しても 15,000 円戻ってくるのです。これまで全然知らなくて、立川市の職員の方がＳＮＳで発信していて初めて知りました。さっそく試してみて、家庭ごみがすごく減りました。そういった取組をもっともっと広めていただくといいのかなと思います。今年の春には、ごみ対策課がたい肥を届けてくれるという取組もされていました。自治組織ほど大規模なことはできなくとも楽しんで取り組むことができましたし、各家庭にも広められるのではないかと思います。

（副委員長）
　自治会でも最初は 500 世帯からスタートしました。スタートしてすぐに対象ではない世帯の方から、なぜ 1,500 世帯全体でやらないのかとご意見をいただきました。それで全体で取り組むことになったのですが、やはりお願いするには段取りが重要ですので、事前に要領を作成して、何日もかけて説明会をしました。そういった過程を経て、今の取組になっています。

（Ｄ委員）
　広報紙については皆さん目を通すのですが、職員の方の気軽な発信からも、良い取組やアイデアを知ることができるので、すごく良いなと思っています。

（Ａ委員）
　立川市は少し控えめなところがあるといつも感じています。シティプロモーションという取組を一生懸命やっていこうとしているところですが、あまり広報の仕方が上手じゃない。例えば、新聞の多摩版に、この市でこんな取組をやっていますと記事になっていることが、立川市では既に取り組んでいることだったということが良くあります。そういった良い取組が発信できていないことが、すごく勿体ないと感じています。
　先ほどＤ委員からお話いただいた生ごみ処理機の助成もそうですが、立川市のリサイクルセンターでは、せん定枝からたい肥の素を生産して配付しています。たい肥の素は、市内で排出された木々の枝や葉、これらをせん定枝として回収しまして、学校給食等から出た食品残さを発酵させたものを混ぜて作ります。このたい肥の素を熟成させるとたい肥に

なります。たくさんのたい肥の素が山になっていて、遠くからトラックで取りに来られる方もいらっしゃいます。だいぶ前からこうした良い取組があるのですが、なかなかＰＲができていないところがあるので、広報の面ではまだまだ工夫する必要があるのかなと思います。

（委員長）
商店街と市が連携していることですと、食べきり協力店という事業があると思いますが、目立った活動はございますか。

（Ｄ委員）
コロナ禍で飲食店は元気のない日々が続いていましたが、皆さんすごく興味を持たれていらっしゃいます。また、立川市では早くからこの取組が実施されています。

（Ａ委員）
持ち帰りや小盛メニューの用意。提供したものは残さず食べてもらう。忘年会シーズンですと、最後の 30 分は食べる時間にするといった取組があります。

（Ｄ委員）
他にも立川市では、レジ袋ではなくマイバッグを早くから推奨していますが、これもやはり発信ができていないのかなと感じます。

（委員長）
先日、ＳＤＧｓ未来都市に認定されている相模原市に伺ったのですが、立川市ではこういった活動をしていますと、いくつかお伝えしたところ、「どれも相模原市では実施していないので、やらせてもらいます」とおっしゃっていました。すごく良い活動だとおっしゃっていたのですが、やはりご存じではなかったんですね。食べきり協力店であるとか、マイバッグの推奨ですとか、やはり発信と情報の共有というのは、すごく大事だと改めて感じました。食べきり協力店についても、飲食店がもっと掲げてＰＲできると良いかなと思います。若い方たちにもＳＤＧｓが浸透してきていますので、お店を選ぶ基準にもなるのではないかと思います。
他にご意見はありますでしょうか。

（Ｅ委員）
ではＧ委員にお伺いします。オールジェンダートイレには、防犯カメラの設置はあるのでしょうか。

（Ｇ委員）
防犯カメラの設置はありません。

（Ｅ委員）
先ほど、他の利用者とあまり鉢合わせない構造とおしゃっていましたが、逆に鉢合わせたら最後という捉え方もできるのではないでしょうか。資料の中に、男性が個室に入ろうとしている奥を女性が歩いている写真があります。例えばこの男性が悪い人で、奥を歩いている女性を引きずり込むことは物理的に可能だと思うのです。やはり見てみないとわからないのですが、防犯カメラが設置されていてもいいのかなと思いました。それこそ、個室は上まで覆われている構造なので、プライバシーは守られると思います。

（Ｇ委員）
確かに、このオールジェンダートイレを町中に設置することは、防犯上の課題が多いと思います。本学では、学内の治安が良好であることや、女子学生が多いことも設置された判断理由でした。
今のところ事件はないですし、可能性も低いとの印象があります。

（Ｅ委員）
ありがとうございます。ぜひ、見に行かせていただきたいです。

（Ｇ委員）
視察についてですが、国の関係者の方が一度来られたことがあると、教授に伺ったことがあります。

（副委員長）
Ａ委員が視察されるときに、同行したいです。

（Ａ委員）
視察に伺わせていただけるのであれば、市の建築部門の担当者も招いてしっかりと見せていただきたいなと思います。

（委員長）
ありがとうございました。
お時間となりましたので、このあたりで終わらせていただきます。何かあれば、後日でも構いませんのでご意見いただければと思います。
本日は、皆さん活発なご議論をいただきましてありがとうございます。私もすごく勉強させていただきましたし、皆さんの取組についても参考となるようなご意見をたくさんいただいたかと思います。

６．今後のスケジュールについて
（委員長）
それでは最後に、事務局から今後のスケジュールについてご説明をお願いします。

（事務局・企画政策課長）
事務局よりご説明いたします。
次回の第２回立川市ＳＤＧｓ推進委員会ですが、令和４年１月 11 日から 14 日の間で開催を予定しております。改めて事務局より日程調整のご案内をいたします。
本日の議論については議事録を作成しまして、皆さまにもご確認をいただきます。
また、本日の第１回立川市ＳＤＧｓ推進委員会に関するまとめを踏まえまして、12 月市議会で報告をいたします。合わせまして、市の具体的な取組としてご紹介いたしました資料について、市ホームページで公開いたします。

（委員長）
ありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問等ございますか。
ご質問等もないようでございますので、このあたりで終わらせていただきます。

７．閉会
（委員長）
以上で、本日予定しておりました議事はすべて終了となります、ありがとうございました。